

少年少女のための 日本の歴史物語

原著 少年国史物語 第一巻 前田晃 著 A4版 318頁＋付録

昭和8年 早稲田大学出版部発行、 2円50銭

今回の口語化(現代語化)の趣旨

若者に、

1. 昔から語られる日本の歴史を、一度は読んでもらいたい。
2. 昔の人が大事にした日本の道徳心・文化・美術・文学を認識してもらう。
3. 多くの漢字の訓読みを教えて日本語の語彙を豊富にする。
4. 昔の言葉の使い方、会話の方法を知ってもらう。
5. ネットで無料で、誰でもどこでも読めるようにする。

この手段として、

1. 原著・原文のコンテンツを尊重して口語化する。 絵・写真はスキャンして用いる。
2. 基本的に旧仮名遣いを現代仮名遣いに変更するが、語彙力を高めるために歴史的仮名遣いも尊重する。 現代仮名遣いは、表音的仮名遣いに歴史的仮名遣いを若干加味している。
3. 漢字の旧字体は新字体とする。常用漢字有無に拘らず、漢字使用を尊重してルビを付ける。
4. 同一文章内での、天皇他へ多重の敬語をシンプルにする。すなわち、敬語を少し軽くする。
5. 物語の中で、分かり易くする為に、現在と比較している。 文意を尊重して、その対象は戦前とする。しかし、文意に影響しない範囲では現状に改める、例； 大日本帝国 → 日本。
6. 男子を対象としているのを、女子も含める。硬い文章を軟らかくし、丁寧語をゆるめる。
例； である、なのだ、であったのである → です、でした。
7. 年号の皇紀表示を西暦にする。最近の古代史に沿った概年代とする。
例えば神武天皇即位を、神話上はB.C. 660年であるとし、古代史的にはA.C. 3世紀末頃とする。
8. 支那などの表現を中国に変更する。
9. 著者のご遺族から了解を得る(2017年9月に済)。
10. 原著の本巻は、平安中期までを記述している。 今後、次巻にも挑戦してみたい。

2018/06/03 谷本 直



原本の表紙

第五 神武天皇の東征

天孫のお降りになつた處は九州の南の端であつたから、神武天皇に至つて都を國の中央にお遷しになることとなり、其途々で、抵抗する野蠻な土賊共を平らげられた。

さて、瓊瓊杵尊以後御三代の間は、都を常に日向の國內に置いて、お政治をなされてゐたので、都に近い地方の者は、其お庇で強盗や亂暴者に悩まされるやうな事もなく、高千穂の宮のお政治の安んじて漁業や農業に従事することも出来て飢ゑも凍えもせず年々を送つてゐた。けれども、都からずつと遠い地方になると、到るところに野蠻な土賊が割據してゐて、威を争ひ、絶えず互ひに戦争をする、弱い者を虐げる。それが爲に田畑は踏み荒される。收穫れた物は掠奪される。何一つ落ちついて家業をすることも出来ないで、善良な併し弱い者は他國へ逃げてゆくか、わるい者らの奴隷にでもなるか

第一巻 目次

- 第1話** たかあまはら **高天原** 1
日本の歴史は神代かみよのことから始まる。天照大神あまてらす おおみかみが支配された高天原から、乱暴をした御弟すさのをのみこと おだの素戔嗚尊が逐い出される。
- 第2話** すさのをのみこと いづもくだ **素戔嗚尊の出雲降り** 5
素戔嗚尊すさのをのみこと いづも くだは出雲に降って八岐の大蛇を退治し、天群雲劍やまた おろち たいち あめのむらくものつぎ えを得られた。
- 第3話** おおくにぬしのみこと くにゆづ **大国主命のお国譲り** 7
素戔嗚尊すさのをのみことの御子の大国主命おおくにぬし いづも たいは出雲地方を平らげてお治めになっていたが、高天原の朝廷たかあまはらの命令に従したがわれて、その領地りょうちをお返しになった。
- 第4話** てんそんこうりん **天孫降臨** 10
そこで天照大神あまてらす おおみかみのお孫の瓊瓊杵尊まご ににぎのみことは、天皇の位くらい えいえんは永遠であるという宝祚無窮ほうそむきゆうのご神勅しんちよくを奉じて、三種の神器を賜わって、豊葦原の瑞穂の国に降られた。日本の国の基もとはここに定さだまった。
- 第5話** じんむてんのう どうせい **神武天皇の東征** 16
天孫のお降りになった処てんそん くだは九州の南の端ところでしたから、神武天皇じんむてんのうに至いたって都を国の中央うつにお遷しになることとなり、その途々で抵抗する野蛮な土賊どもを平らげられた。
- 第6話** かきはら てんと **橿原奠都** 25
大和の橿原かきはらの地さだに都を奠はじめ、始めて天皇の位てんのう くらいに即つかれ、ここに建国の実けんこくをお挙げじつになった。
- 第7話** いせ じんぐう **伊勢の神宮** 29
久きゆうちゆうしく宮中まつにお祀りしていた天照大神あまてらす おおみかみのご神霊しんれいを外ほかにお遷うつして、皇居こうきよと神宮じんぐうを別々になされた。今の伊勢いせに垂仁天皇すいにんの御代みよにご鎮座ちんざになった。
- 第8話** こうい しんこう **皇威の振興** 32
四道將軍しどうの派遣はけん、朝鮮みまなの任那ほごを保護国として日本の役所みまなを任那に置いた。
- 第9話** やもとたけるのみこと せいぼつ どうせい **日本武尊の西伐東征** 34
西に熊襲くまそを討ち、東に蝦夷えぞを平らげて、ますます遠くまで威いを及およぼされたが、凱旋がいせんの途中で、俄にわかにご病氣かかに罹かくってお薨かくれになった。
- 第10話** じんぐう こうごう さんかんせいぼつ **神功皇后の三韓征伐** 42
熊襲くまそがまた叛そむく。神功皇后じんぐうこうごうは非常なご決心もを以もって、この熊襲の後押しあとおしをしている新羅しらぎを征伐せいぼつなされた。続いて百済くだらも高句麗こうくりも降くだって、三韓さんかんは悉ことごとくわが属国ぞっこくとなった。
- 第11話** ぶんぶつ でんらい **文物の伝来** 45

- ぞっこく しき ぶんぶつ ぶんめい とみ
 属国となった三韓から頻りに文物を伝えて来た。わが国の文明は頓に進歩した。
- 第 12 話 仁徳天皇の御仁慈** 48
- ひんく あわ そぜい めんじょ きょくたん しつそ
 人々の貧苦を哀れまいらせられて、長く租税を免除せられ、極端に質素な生活をなされた。
- 第 13 話 任那の滅亡** 52
- しらぎ みまな
 朝鮮半島では新羅の勢いが強くなって、ついに任那を滅ぼしたので、日本府もまた滅びた。
- ゆうもう いきな そうれつ おおぼこ
 勇猛な伊企儼と壮烈なその妻大葉子の話です。
- 第 14 話 仏教の伝来** 55
- くだら ぶつきょう いけん そうい おおおみ そが
 百済から仏教が伝えられると、これを信じていいか悪いかの意見の相違から、大臣の蘇我
- おおむらじ ものべ そうらん ものべ そが ほろ
 氏と大連の物部氏との間で一大争乱が起きて、ついに物部氏は蘇我氏のために滅ぼされた。
- 第 15 話 聖徳太子の摂政** 60
- しょうとくたいし せつしょう
 太子は最も仏教の興隆を図られたが、政治の上にもさまざまな改革をなされて、わが国の
- しんぱう じょうせき こうぼう せいきょう
 進歩の上に非常は功績を残された。そのお定めになった憲法十七條は後の世の政教の基本
- となった。
- 第 16 話 中国との交通** 65
- ちゅうごく こうつう
 太子はまた中国と対等の交通を開いて、大いに国威を発揚された。
- 第 17 話 蘇我氏の滅亡** 68
- そがし めつぼう
 物部氏を滅ぼした後の蘇我氏は独り朝廷で勢力を振っていたが、後には皇族の宮を攻めたり、
- そんげん おか たてまつ むどう きわ なかとみのかまたり た なかのおおえの
 皇室の尊厳を侵し奉ったりして、無道を極めた。ついに中臣鎌足が起って中大兄
- おうじ ほう ちゅうりく
 皇子を奉じてこれを誅戮した。
- 第 18 話 大化の改新** 74
- たいか かいしん
 久しく貴族らの手に在った政治上の権力を悉く朝廷に収めて、専ら民の生活を幸せにな
- さろうとつとめられ、今日のいわゆる国家体制の確立をなされた。大化とはこのときはじめて
- 定められた年号です。
- 第 19 話 蝦夷征伐と三韓の分離** 77
- えぞせいばつ さんかん ぶんり
 東の蝦夷と北の蝦夷。阿倍比羅夫が200艘の船軍を率いて、今の北海道から樺太の
- えぞ えぞ あべのひらふ そう ふないくさ ひき からふと
 方までも進んで肅慎を討った。朝鮮では、ついに新羅が百済を滅ぼした。
- 第 20 話 大宝の律令** 80
- たいほう りつりょう
 大化の新政を承けて、文武天皇の御代に出来た大宝の律令は、この後、永くわが国の政治
- う もんむ たいほう りつりょう なが
 の根本となったものだが、殊に令の中の官制や諸制度などは、明治18年まで実に1200年近く
- ほとん そ ほぞん
 も殆ど其のままで保存せられた。

第 21 話 奈良の都

87

文化の発達につれて、今までのような小さな都では不便が多くなった。元明天皇の御代に、始めて広大な都を奈良に奠められた。

第 22 話 聖武天皇と仏教

91

先に聖徳太子が弘めることに力を尽くされた仏教は、聖武天皇の御代に最も盛んになって、日本国中に弘まった。奈良の大仏はこの天皇の御代に造られた。

第 23 話 吉備真備と阿倍仲麻呂

96

遣唐使と留学生とはわが国を進歩させる上に最も力のあった人々ですが、彼らが中国へ赴くには、非常に危険な航海をしなければならなかった。奈良時代の留学生の中では、吉備真備と阿倍仲麻呂とが最も聞こえている。

第 24 話 奈良時代の学芸美術

100

奈良時代は学問もまた大いに進んで、歴史書や地理書や歌集なども始めて作られた。殊に、美術や工芸は、聖武天皇の天平時代に著しく進歩して、後の世にまで名高くなっている。

第 25 話 和氣清麻呂

106

仏教が盛んになって、多くの名僧が出たのと共に、稀には悪い考えを懐いた僧も出た。弓削道鏡の如きはそれです。幸い和氣清麻呂という大忠臣が現われて、尊い国体を護って疵をつけさせなかった。

第 26 話 平安奠都

97

国の勢いが盛んになるにつれて、奈良の都も不便になってきた。都は平安に遷された。今の京都がそれで、桓武天皇の御代から明治天皇の明治二年まで、1070 余年の間、帝都はそこから動かなかった。

第 27 話 坂上田村麻呂の蝦夷平定

100

たびたび叛いては服し、服しては叛いた蝦夷も、坂上田村麻呂の征伐で全くその巢窟を覆されて、その後は襲来するというようなことが殆どなくなった。

第 28 話 伝教大師と弘法大師

103

仏教は、奈良時代までは大陸から伝わって来たままのものだったが、平安時代に入ると、全く日本化して、日本人の仏教となった。この新しい仏教を大いに弘めたのは伝教大師と弘法大師です。

第 29 話 平安時代初期の文化

111

新しい仏教が盛んになると共に漢文学もまた大いに興った。大学以外に私学校も幾つか

もう
設けられたが、とりわけ藤原氏の勸学院は最も盛んでした。

第30話 藤原氏の出世

114

先祖の鎌足が大功を建てて以来、藤原氏は引き続いて朝廷から特別のご信任を得ていたが、その後、皇室とのご縁も深くなり、清和天皇が九歳で御位に即かれるに及んで、ついに摂政と
なって政治を執るようになった。

第31話 菅原道真の誠忠

118

藤原氏の勢いが余りに強くなりすぎたので、宇多天皇はこれを弱めようとなされて、菅原
道真を重く用いられた。が、道真は却って藤原氏のために讒せられて、遠く大宰府に流され
た。

第32話 天慶の乱

127

藤原氏が天下の政治を私して、わが儘を極めていると、東国には平将門が叛き、西国
には藤原純友が乱を起こした。武士の力をかりて、やっと鎮定したが、その為に、此の後は
武士の勢力が次第に強くなって来た。

第33話 藤原氏の専横

135

けれども、地方の勃興などには藤原氏は頓着しなかった。やっと天慶の乱が鎮まって世
の中が穏やかになると、彼らはすぐまた驕りに耽って遊び暮らした。御堂関白道長に至って、
このわがまは其の絶頂に達した。

第34話 平安時代の学芸美術

141

菅原道真の意見によって遣唐使が停められると、漢文学は漸く勢いを失い、国文学がこ
れに代わった。平安時代は所謂和魂漢才から更に一步を進めて、日本固有の優美な特色を
発揮した時代です。殊に優れた女性の文学者の多く出たことに於いては前にも後にも例が
ない。

(第0話 はじめに 終わり。 次はトップに戻り、 第1話 高天原 へ)